

ヨーロッパにおける難民受入れ危機 最新レポート(2015年12月2日)

2015年11月19日以降、バルカン諸国（最初にスロベニア、クロアチア、続いてセルビアとマケドニア旧ユーゴスラビア）はシリア、イラク、アフガニスタン国籍以外の難民の入国規制を開始し、アフリカやアジア（イラン、モロッコ）からの難民の入国は認められず、彼らは引き返さざるをえない状態になりました。その結果、少なくとも1,500人の難民がマケドニア旧ユーゴスラビアの国境に程近いギリシャのイメドニ島で立ち往生する事態となり、冬支度のない現地の状況は非常に厳しいものとなっています。足止めされた結果、自殺やハンガー・ストライキ、口を縫うなどの過激な抗議行動をとる難民も見られます。

ベルギー

2015年8月より、1ヶ月に4,000-5,000人の難民がベルギーに到着するにもかかわらず、政府の難民申請は追いついていない。多くの家族が、水も食料もシェルターもないブリュッセルの外国人登録局の前で野宿をしている。ベルギー政府は1,000床ある夜間のシェルター提供やファンドの立ち上げなど対応の強化を図っているが、医療サービスとしては緊急対応のみで、妊産婦や子どもへの初期的なケアや慢性疾患などの対応は行っていない。シェルター、食料、医療、社会的、法的支援、彼らの子どもに関する教育へのアクセスがない状態で、常時、2,000人以上が登録局の前で難民登録の機会を待っている。またテロの脅威にさらされた登録局は、数日間に渡って余儀なく閉鎖された。パリで起きたテロの影響により、今やメディアの関心は、難民危機からベルギーでいつ起こるかもしれないテロの脅威に移っている。

世界の医療団はパートナーとともに診療活動を行っている。医師、看護師、精神科医、通訳などが、1日30-40人の診察にあたっている。申請書類を持たない難民、難民認定を受けていない難民、そして難民認定されたもののこころしか知らない、もしくは馴染みがあるとの理由で世界の医療団に来る難民、そして大部分が到着したばかりの難民と、患者層は様々である。

ブルガリア

ベオグラード人権センターがリリースした調査によると、ブルガリアからセルビアに入国した単身の未成年者を含む難民へのブルガリア警察による虐待や暴力が報告された。恐喝、暴行、窃盗などの被害が報告されている。ある難民は、銃撃に遭ったり、国外退去を申し渡されることもあったという。トルコとブルガリア、そしてセルビアとブルガリアの国境で、このような事件や事故のアクシデントが頻発している。一日200人を超える難民が数日間にわたって、山岳地帯を抜けセルビアとブルガリアの国境を渡る。その多くがアフガニスタン、シリア、イラクから逃れてきた難民たちである。

クロアチア

11月8日に選挙が行われ、熾烈な選挙戦の末、2大政党を抑え中道右派の野党・クロアチア民主同盟が第一党となった。

11月下旬、約3000人の難民がクロアチアに入国し、そのうち3分の1がスラヴォンスキ・ブロードのキャンプに滞留している。鉄道工事により、セルビアから難民を乗せた列車はグラシン駅に到着する。政府の発表によると、テントを設置し、下水設備を完備した施設の建設を開始した。グラシン駅に到着した難民は、スラヴォンスキ・ブロードのキャンプにバスで移送され、のちスロベニアに向けて移動する。

フランス

カレーでの人道危機を受けて、世界の医療団はパートナーNGOの Secours Catholique (Caritas)とともに難民キャンプの環境改善を求めて提訴、結果、行政により飲料水の配給施設、トイレ、ゴミ収集システムなどが設置され、また同伴者のいない未成年を48時間以内に保護するルールなどが新たに強化された。

11月中旬にはカレーのキャンプ内の診療所も破壊されたが、診療再開に向けて活動している。冬の到来から不安が募り、キャンプに到着する人々の間にストレスや自暴自棄になる感情を抱える人が増えている。またパリで起きたテロ事件から、ホスト社会から締め出されるのではないかとという恐怖感も芽生えている。事実、11月21日、22日に火災が発生し、1平方キロに渡って燃え広がった。その一週間前にもカレーのキャンプでは2,500m²を焼失する火災が起きている。残念ながら、世界の医療団の移動型クリニックも放火の被害にあったが、アウトリーチ、メンタルケアの診察を続行している。

ドイツ

10月から12月にかけて、ドイツにて推定約80万人が難民申請した。これまで35万人以上の人々が難民認定された。バイエルン州では2015年10月末までで、5万人以上が難民認定されている。ドイツとオーストラリアの国境沿いは難民が殺到している。

ドイツ・ジムバッハ、オーストリア・ブラウナウ国境付近で、警察が難民の入国規制を開始した。審査を待つ列順をキープするため、野外で睡眠をとる人も多く、市民ボランティア団体が飲み物、食べ物、毛布、衣服などを配布している。シリアとアフガニスタンからの難民が毎日、ミュンヘン中央駅に到着する。彼らは更に北上して、北欧へ旅するため、ミュンヘンでは難民申請を行わない。また彼ら未登録の難民は、難民認定された難民が受診できる健康診断を受けることができず、世界の医療団は引き続き、基礎的治療とカウンセリングなどを実施している。処方が必要な場合、今後の処方のために紙に詳細を記入して患者に渡しており、また他の都市の役に立つ機関や窓口の情報なども共有している。他のボランティア団体と協働して、食べ物、衛生用品、毛布、チャイルド・シートの配布、ドイツの旅行事情を翻訳して情報提供するなどのソーシャル・サポートを提供している。

ハンブルグでは、毎日500人～1000人の人が到着する。現在、未登録の難民については中央駅近くの劇場に滞在できる。難民申請センターの滞在者には妊婦が増えており、市によって検診が実施されている。難民救済法が11月に施行されたが、この法律は難民認定が通らなかった難民の国外退去をより促進させるものであり、住居や金銭、食料、衣服などの生活必需品などの支給についても時間的な制限を追加するものである。

ギリシャ

アテネ

一時的な滞在施設となっているガラチのスタジアムにて、プライマリ・ヘルスケアと薬学ケアを提供。

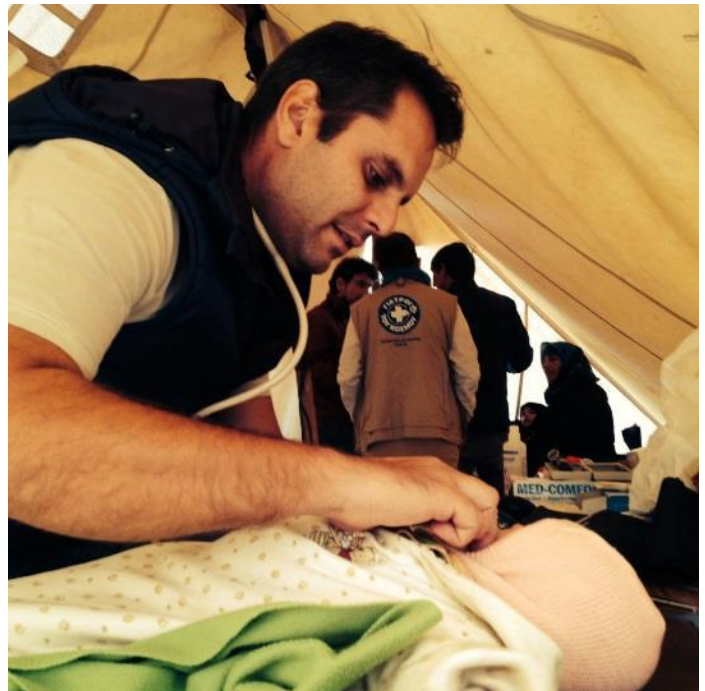
イドメニ





FYROM（マケドニア旧ユーゴスラビア共和国）は11月18日、シリア、アフガニスタン、イラクからの難民のみにイドメニからの国境通過を許可した。国は国境での審査を開始、条件を満たさない難民はイドメニに送り返され、通過できない難民が無理に通過しようとするなどして混乱が起きてしまった。結果、国境自体がほぼ閉鎖される事態になっている。セルビアが同様の締め出し政策を採用したことに習ったとFYROMは主張している。11月19日、キャンプにいる滞留する難民の3倍の約5,000人の難民がイドメニに集結したが、その夜1,500人から2,000人のシリア、アフガニスタン、イラクからの難民は無事に国境を通過できた。11月20日、約2,000人がキャンプに残されたが、若者たちが国境閉鎖の抗議のため国境を通過しようと試みたのを機に、キャンプの開放を求めて、抗議の声が広がっていった。シリア、アフガニスタン、イラクからの難民の元通り国境を通過できるように

なった。緊張が増す中にも、1日5,000人近い難民が国境を通過しようと押し寄せている。数人の難民はハンガー・ストライキや口を縫うなどして、抗議の意思を表明している。家族もいるが、ここにいる難民のほとんどは若者である。現地を視察した内務省の幹部によると、FYROM（マケドニア旧ユーゴスラビア共和国）の新ルールは既に浸透しつつあるが、ギリシャ政府はギリシャ国内にとどまる難民はアテネに戻ることを促しており、実際、難民たちのためにアテネ行きのバスが手配された。欧州とトルコは難民受入れ危機について何らかの打開案を打ち出すことを表明している。



ハンガリー

UNHCRの報告では、11月13日から19日にかけて68人（一日平均15-20人）のクロアチア、セルビアからの移動してきた難民たちが不法入国として警察に逮捕された。10月1日以降、難民申請を行うことができない状態が続いている。11月14日、ハンガリー政府は、テロ脅威レベルを”B”に引き上げ、空港、バス・ターミナル、駅などで入国管理を更に厳しい規制を敷く体制とした。入国管理局やテロ対策に関連する国家機関は、非常事態を宣言、南側の国境には軍を配備している。また、内務省は”公共の安全”のため、ムラケレストゥール、マジダルボーイ、ジェーケーニェシュにある駅を30日間にわたって部分に閉鎖した。

イタリア

11月中旬、一週間で約1,000人強の難民がイタリアに到着したが、減少の兆候を示している。また昨年の同時期と比べ、季節的な理由もあるが海からの入国が40%も減少した。NGOや機関が共同で発行しているレポート、“Rapporto sulla protezione internazionale in Italia 2015”によると、難民申請者たちの健康問題として挙げられるのは、熱中症、日焼け、凍傷、長い間狭いボートで身動きせずに同じ姿勢でいたことによる褥瘡、また脱水症状は腎不全を引き起こす恐れがあるなど、辿って来た旅路に関連する傾向がみられる。また、過密した衛生状態が悪い場所にいることで、疥癬などがすぐに蔓延する。妊娠初期や出産直後の女性も多く、時として彼女たちはレイプの被害者であることが多い。多くの難民は、拷問、暴力、命を脅かすような屈辱的な処遇を受け、トラウマを抱え、そして暴力によって家族を亡くし、その目撃者なのである。リビアでは、暴力は日常にある。

脱出後、難民たちはメディカル・チェックを受け、その後ステータスにより、それぞれの難民収容施設に移送される。大抵の施設では医療を受けることができず、インフラの面からも言葉や宗教など文化的な面からも様々な弊害にぶつかることが多い。2015年だけで3万人近い難民がカラブリア港、もしくはシチリア沿岸に到着した。

オランダ

現地の報道によると、1週間に約1,700人の難民が新たに入国する。11月23日現在、5万を近くがオランダで難民申請を行った。うち48%がシリアから、約15,000人が女性であった。ナイメーヘンの緊急難民収容センターは満員状態で、約3,000人にシェルターを提供している。オランダ政府、また世界の医療団や赤十字社などが協働し、医療サービスを提供している。

ここでの症状で多いのが、頭痛、胃痛、下痢、咳、風邪、皮膚疾患、また歯科疾患などである。もう少し重いケースとして、糖尿病、肝機能障害、妊娠とメンタル面での問題などがある。

ハーグでは、社会保障省が家を提供していたが、12月末までに立ち退きをせざるをえなくなった。難民申請手続きの遅れから、

幾度の移動を余儀なくされ、また今後の不安などから、精神面での疾患を抱える難民が増えている。精神科医は派遣されているが、明らかに人材が不足している。同伴者がなく、病歴が不明であるが、慢性疾患ですぐに治療が必要な子どもについて、到着後いかに早く発見できるか対応を迫られている。



ノルウェー

2015年11月、ノルウェーでの難民申請数は大きく増加し、この大量流入に関係機関は苦慮している。アルバニア、シリア、エリトリア、イラクからの難民が多く、認定率はそれぞれアフガニスタン57%、シリア84%、エリトリア91%、イラク13%となっている。

難民申請後、各地に広がる収容センターに滞在する。結核のみ、入国時にスクリーニングされている。申請が出来なかった難民は、子どもと妊婦を除き緊急時のみの受診が可能となっている。申請が却下された人々は、故国に帰される不安、また国の機関に報告されることを恐れ、こうしたシステムからも漏れてしまう。

スロベニア

昨年この時期と比較しても、西バルカン・ルートは北欧を目指す難民で2,000%の増加率を記録したが、厳しい冬と国境の厳しい入国制限のため、2015年11月からは大きな混乱は起きていない。スロベニア警察によると、セルビア・ハンガリー国境封鎖後25万超の難民が流入、平均して1日2,000人から6,000人が入国、オーストリアを目指す。

UNHCRによると、11月17日、スロベニアの南東の国境では11kmに渡るフェンスが設置された。ドボヴァ、Gruškovje、Petišovciなどから国境を越え、難民登録を済ませ、収容施設かバスか電車でオーストリアに向けて出発する。10月や11月上旬と比べ、手続きはスムーズに行くようになった。

11月19日、政府機関はイラク、シリア、アフガニスタンからの難民のみ通過を許可する方針を打ち出した。



オーストリア政府はシュピールフェルトとシェンティリの国境に、2.2Mもの高さのフェンスを設置した。内務省は「これは難民の入国を防ぐ措置ではなく、シュピールフェルトとシェンティリの国境を開放することを意味している」と発表した。

スペイン

欧州委員会の難民受入れ分担案に従い、スペインはシリアやその他紛争地域から約18,000人の難民の受入れを表明した。これまでもイタリア、ギリシャに滞留していた難民、エリトリア、セウタ、メリリャ、カナリア諸島に到着した難民を受け入れている。一年前、メリリャにある難民一時収容センターに滞在する難民はサブ・サハラ・アフリカ地域から難民だったが、現在、そのほとんどはシリアからである。モロッコは難民に対し、救済措置をとっておらず、また当局もスペイン国境からの入国ができないよう取り締まっている。

スウェーデン

10月までで、計10万人を超える人（うち23,000人が同伴者のいない未成年者）スウェーデンで難民申請を行った。現在は、毎週8,000人から1万人が、マルモから流入している。彼らを取り巻く情勢は地域によって、全く様相が変わってくる。

真冬の到来が近づくにつれ、シェルターの混雑から感染症の蔓延のリスクが高まることが危惧される。行政は子ども連れの家族や同伴者がいない未成年などのケアに重点を置き、単独の男性の健康問題が置き去りにされている傾向がある。



ストックホルムから600kmのスウェーデン南部のスコーネ地方には、多くの難民が到着する。行政当局は、医療へのアクセスを整備したが、受入れに関する問題は一向に解決しない。現在、8万人以上の人が政府から提供されたシェルターに滞在している。ストックホルムに比べて、歓迎ムードがある地域からなのか難民が大量に流入、滞在施設が混み合い、ヒーターなしのテントやコンクリートの床の上で多くの難民が寝ている。アフガニスタンからの難民が多く、難民の25%が同伴者を持たない未成年である。人員不足などの理由から、

行政によるキャンプ内のクリニックが閉鎖されてしまった。

11月12日、デンマークへの橋とドイツへのフェリー港に入国管理局が設置された。これにより、ボートでスウェーデンに流入する難民が報告されている。

11月24日、首相は、難民には一時的な滞在許可のみ与える、入国審査を強化する、家族の呼び寄せについても制限する、との方針を表明した。家族での入国制限については子どもや配偶者に限っており、LGBTの人々については呼び寄せが難しくなる方針となっている。

イギリス

イギリス政府は2020年までに、レバノンとヨルダンの難民キャンプから2万人のシリア難民の受入れを行うと発表した。